



福島訪問2023 夏季

outline

解除された帰還困難区域

表面上では進む復興

「安全性」

飯館村の長泥地区での放射線量

- 今年5月に
帰還困難区域が解除
された





左から、
フレコンバッグ、長泥コミュニティーセンター、
長泥曲田公園の張り紙



表面上では進む復興

左から

- 伝承館の中筋さんの案内で、遭遇した大量のメガソーラーパネル
- 二枚目、三枚目:中筋さんに案内された街中の廃墟

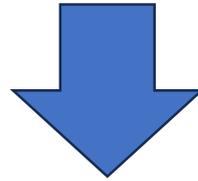
「安全性」

- 一部の帰還困難区域では未だ線量が高かった
- 福島原発の処理水は核に直接接触した、第一次汚染水
- 得られていない地元住民の賛同
- 報道されない福島現状

福島県民の安全を蔑ろにしており、自国の利益のことしか考えられていない

まとめ

- 『「復興」とは「災害によって衰えた被災者および被災地が再生すること」である。』
(宮原 2006)



震災から10年以上経った今、進まない本当の復興をもう一度問い直す必要がある

目先の利益にとらわれず、長期的に支援を続けていく、それが本来復興のあるべき姿であり、被災者の安全を保障していくべき

参考資料

- “東電向け国の支援7兆円突破 震災3年、賠償・除染なお課題”. 日本経済新聞.2014-03-10.
- “2045年にどこへ？原発事故で発生した汚染土 福島・中間貯蔵施設の現在地”. 東京新聞.2023-05-21.
- 宮原浩二郎.「復興」とは何か——再生型災害復興と成熟社会. 2006. 先端社会研究 第5号